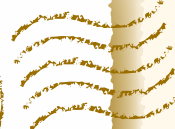




町長コラム

ベア・パル

さいおう うま
「塞翁が馬」

8月9日と東京2020オリンピック・パラリンピックが多事総論の中終幕を迎えました。今大会は復興と共に感染症と人が集うという人類文化への挑戦と位置付けることもできた歴史的なイベントであったと思います。オリンピックを盛り上げようとコロナ以前に考えていた「おもてなし事業」。たくさんありましたが、その一つに前夜祭がありました。

その前夜祭で(町長の考えることは時折唐突とどこかで指摘された)「流鍋馬と利府町」をアピールしようとしました。なぜなら、流鍋馬はスポーツの町・利府にふさわしい時代性をもっているスポーツだからです。流鍋馬は神事とつながっていますので男性中心になります(相撲と同様)。神事であった流鍋馬を催事、スポーツに転換する事によって女性の参入が可能になります。このコペルニクスの転換を図ったのが十和田市にある「十和田乗馬倶楽部」です。豪快な騎射と女性の華やかさが相まって同市のイベント「桜流鍋馬」は活況を呈し、競技人口もみるみる増加しています。

さらに復興を鑑みれば、東日本大震災時、未曾有の大災害にあっても秩序立てて、落ち着いた行動をとり、相手を思い

やる仁の心を体現した東北人の姿は世界中の人々に驚きと感動を与えました。私はその根底にあるのは武士道精神だと思っています。武士を表す言葉として「弓取り」があり、弓馬の道を究めることは「弱きを助け強きを挫く」人格者の条件であったと思います。このように、新しいスポーツ、女性活躍、武士道、東北古来の文化である馬事文化をスポーツ流鍋馬に収れんさせ、復興五輪の幕開けに震災からの復興は東北の文化と切っても切れない関係であると世界に紹介しようと試みたのです。

東北の歴史を語るうえで欠かせない馬との関係。馬事文化は、文明の利器・車等にとって代わられてしまいましたが、新たな文化創造として、利府の観光地である「馬の背に馬で行く」のような大胆な発想も新時代の馬事文化に華を添えるのではないのでしょうか。

ゆたか

利府町長 熊谷 大

利府町

地域おこし協力隊がゆく!

No.29 梨の着果数制限! 収穫に向けての最終調整を行いました

果実の数を制限、少なくする事により一つ一つの果実を大きく美味しい梨にする作業を摘果と言います。今回はその仕上げとも言える、最終摘果を行いました。梨の実がつく枝1本あたり、最終着果数約6個に絞り、実と実との間に拳一個分の距離をあけ、着果数を調整していきます。ここで欲張りすぎて多くの梨を収穫しよう! と思い多めに着果させてしまうと、一つ一つの実が小さくなり、糖度も上がらず、梨の商品価値を大きく下げってしまう事になります。そして、距離をあけずに実らせてしまうと果実が肥大した際に果実同士が擦れ傷がつきます。果実が接触した部分には農薬がかかりにくく、また、傷部分から病害虫の被害を受ける確率が非常に高くなるため、距離をあけての摘果が重要になります。果実はとにかく実らせれば良いというわけではないため、適宜このような調整が必要になってきます。皆さんも大きく甘い梨をぜひ食べてみてくださいね!



きっかわ かずとし

地域おこし協力隊 吉川 一利



摘果作業忘れ部分



摘果作業終了後、畑に転がる梨



最終摘果終了後の梨

吉川 一利
利府梨とポケモン好き。
kuro_ranger

ブログやってます。

地域おこしと梨とオウ。

検索

